

シリーズ 1/6の子どもたち

対談

名古屋市小学校非常勤講師
岡崎 勝氏

ボラみみより情報局 代表
織田 元樹

▶▶▶ P.2からの続き

面倒臭いことを、面倒臭いまま引き受ける

織田 なかなか根本的な解決策が見受けられない印象ですね。最近では行政も貧困問題に取り組んでいます。どういった支援になっていくと思いますか？

岡崎 もう行政は“何でもやる課”のような形で、具体的な対策やノウハウ、戦略をすぐに出せるシステムにしてほしいですね。必要なところに必要な手当てがいこうにならないと。

織田 僕は社会問題は病氣と一緒にだと思っています。例えば風邪をひいた時、薬を飲まずに治る人もいれば、飲んで治らない人がいますよね。貧困もそうだと思う。全員に同じ処方箋を与えても良くなるとは限らない。その人に合わせた治療方法を考えていくべきなんです。今の制度はそういう状況になっていません。

岡崎 縦割り・横割りの状態ではない、総合診療のような窓口が必要ですね。あとは人員を増やすこと。これは学校も同じ問題を抱えています。例えば、休み時間に先生が職員室に帰って来れないんですよ。「ケガをしたら困ります」「いじめの芽が少しでもあったら摘んでください」と親御さんに言われているので、教室をじっと見えています。だから今の先生たちは他のクラスを見る余裕がなく、「自分のクラスだけはトラブルを起こさないように」という感じになっています。役所で言えば「自分のところに来た人だけはケアしよう」ということですね。周りを見るゆとりがない。

織田 先生にも、親にも、子どもにもゆとりがなくなってきましたよね。この状態を変えていくにはどうしたらいいんでしょうか？

岡崎 “面倒臭いことを、面倒臭いまま引き受ける”ようにしたらいいんじゃないかと思っています。合理化の考え方が現実をどんどん悪くしている。例えば学校にコンピューターが入ったことで、通知表は手書きではなく入力になりました。その分、時間に余裕ができたんですが、実際はますます忙しくなっている。なぜかと言うと、その分だけ仕事が追加されるからなんです。絶対量が減らないので、結局子どもと付き合

う時間がなくなってしまう。だから、あえて面倒臭いことをした方がよいと思います。

新しい“一人前のイメージ”が必要

織田 先ほどの話に戻りますが、非正規労働で収入が少なく、生活が安定しない親が増えてきているとのことでした。その影響で貧困の子どもたちが増えていくとすると、これは社会全体で取り組むべき問題だなと感じます。

岡崎 気をつけたいのは、標準化された人生コースを追ったからといって必ずしも豊かになるとはかぎらないですね。これからの支援は、支援を受ける子どもの将来を考えながら行うべきだと思います。こどもNPOの方ともその話をしたことがありました。勉強したくてたまらない子が、家に環境がないからここに来ている。それ自体は良いけれど、同時に「勉強とは何か」ということを教える人たちも必要です。支援していく中で「本当に良い人生とは何か？」という問いかけができればいいなと思います。

織田 生き方の選択肢を多様にしていく必要がありますが、なかなか難しいですね。

岡崎 大人の中に“一人前のイメージ”がないですからね。昔は、自分で生活できて、家族を作ることができたら一人前でした。今は大人自身が大変だから、自分の子どもが仕事して家を持つことがイメージできない。だから支援しなくてはいけないと思って、親がかりの時間がすごく長くなっています。親と子の関係がなかなか切れずに独り立ちしにくい。だから、それぞれで新しい“一人前のイメージ”を作るしかないと思います。

織田 なるほど。日本の経済が転換期に来ている中で、貧困状態から脱した先をどのように考えるのか。これからも継続して支援しながら、その答えを考えていく必要がありますね。シリーズ「1/6の子どもたち」は今回で終了しますが、またどこかの機会での問題は取り上げたいと思っています。岡崎先生、皆さん、ありがとうございました。

この記事は2017年8月1日(火)に行われた対談を要約したものです。

第44回

企業の社会貢献活動の現場から

隔月で、地元企業の社会貢献活動について、各担当者に自社の社会貢献活動を紹介していただいています。第44回となる今回は、株式会社今仙電機製作所です。

安全な地域社会を目指して

株式会社今仙電機製作所 総務部

今仙電機は、愛知県で創業し78年。「よい品を、より安く、より速く」をモットーに自動車部品サプライヤーとして、カーライフの安全と快適をサポートしています。現在、国内に7工場を構え、拠点ごとに地域社会と密接な連携と協働を図り、地域社会との積極的な交流・貢献に取り組んでいます。

愛知県犬山市の本社では、2010年から総務部門社員で「IMASEN 地域防犯パトロール隊」を結成し、安心できる街づくりを目指し、地域警察指導の下、青色回転灯を装備したパトロール車輦で会社周辺を巡回し、防犯を呼びかけています。日中の住宅街での空き巣や駅前での自転車盗難などの犯罪の抑止効果となればと思っています。巡回は、事件・事故を発見した際などに素早く行動できるよう、必ず二人一組で行動するとともに、巡回順路や時間帯も変え、犯罪者に狙われにくい環境作りにつとめることで、地域にお住まいの方々に、安心を与えることができると信じて日々活動しています。



岐阜県可児市の春里工場では、地域の小学生の通学の交通支援活動を行っています。自動車産業に携わる企業として、自動車社会における交通安全への貢献を目指し、2009年より有志社員によって、毎朝工場近隣の交差点で交通整理や小学生の通学団への付き添いを行っています。地域の皆様と協力しながら、子供たちの安全な通学を見守っています。将来この子たちが、当社の一員として...なんて期待も少ししながら。

今後も、日頃ご支援いただいている地域社会に少しでも恩返しできるように、様々な活動に継続的に取り組んでまいります。



株式会社今仙電機製作所 総務部
〒484-8507 犬山市字柿畑1番地 TEL:0568-67-1211 FAX:0568-67-3418

..... 次回は、CKD株式会社をご紹介します。

新団体紹介

隔月で、設立1年未満の団体紹介をしています。NPOやボランティア活動がより身近に感じられるよう、様々な分野の団体を取り上げていきます。

特定非営利活動法人 ASTA

団体設立

2017年5月23日

代表者

久保勝

連絡先

E-mail: asta.ally@gmail.com

ホームページ: https://asta.themedia.jp/

活動分野

人権平和 / 文化
男女参画

活動目的

教育現場・保護者・企業に対し性的少数者の人権に関する事業を行い、自殺・いじめ・人権に係る問題の改善や解決を図り、多様性の向上と当事者の健全な育成の増進に寄与すること。

活動内容

- (1) LGBT出張授業
- (2) LGBT講演会
- (3) 名古屋LGBT成人式

団体PR

性的少数者(LGBTs)についての知識不足が招く、いじめや当事者の自己否定などの多くの問題を改善するため、幼少期・青年期における正しい知識の教育、また同時に教職員や保護者など学校全体、あるいは会社組織など社会全体への啓発を行っています。LGBTs当事者と出会い、対話を通して、LGBTsだけではなく多様性や人権の尊重、思いやり、モラルについて考えます。13人に1人の割合と言われるLGBTsと多様性のこと、一緒に考えてみませんか？